

# インタビュー

（株京写  
代表取締役 社長執行役員

## 児嶋 一登氏



受注が好調だった。今後も継続すると予想している。

片面板で世界最大規模を誇るプリント配線メーカーの（株京写（京都府久御山町）は、新たな主力製品として金属基板の展開を加速させている。

は車載向けが減少した。需要が急増しているアルミ基板は、次期中期経営

細を。児嶋 これまで中国工場で生産していたアルミ

九州工場の移転計画について。児嶋 工業団地の造成遅れにより延期となっている。アルミ基板のライン増設も現工場で実施したため、当面は現工場での立ち上げを優先し、稼働状況次第で移転も進めていく。

拠点整備や投資の計画について。児嶋 ベトナム工場ではインド市場向けを中心に車載向け以外の家電製品などについても受注が増えている。ベトナム工場での合理化投資を推進し、自動化やロボットの導入など生産効率を向上させる。そのほか、タイでは中国企業の進出による供給過多が課題となっており、販売体制の再編も検討する。

た、アルミ基板の引き合いも増加しており、九州工場から出荷する計画だ。国内拠点はいかがでしょうか。児嶋 両面板については、新潟工場は量産に特化し、自動化など高効率な生産を強化していく方針だ。一方、京都工場は少量多品種で高精度な技術商品の生産に注力するほか、新たに厚銅基板の生産も開始する。そして、

だ。27年3月期から開始する中期経営計画の詳細を。児嶋 金属基板を成長ドライバーと位置づけ、放熱基板としての用途を中心に展開を進める。特にアルミ基板のさらなる拡販と厚銅基板の展開に注力する。

# 金属基板を本格立ち上げ

## 稼働増加で増収増益を計画

が、市況の変化や、BCPと脱中国の対応として進めていたインドネシアのライン入れ替えによる稼働の一時調整、日本でも九州工場でのアルミ基板の生産立ち上げが遅れたこともあり生産面で苦戦した。

計画でも注方事業に据えており、さらなる伸長が見込まれる。特にアルミ基板は、総合化学メーカーのプリント基板事業の生産移管分に加え、ヘッドライトなどで引き合いが増えていくだろう。

実装事業はいかがでしょうか。児嶋 実装事業は好調で、全社の業績に貢献した。インフラ向け制御基板などの産業機器関連の

基板について、需要の増加に対応し、急遽ラインを立ち上げた。九州工場ではリジッド基板を生産しており、ラインの調整が難しく、また、生産プロセスにおける顧客の要望に沿った調整など立ち上げに苦戦した。しかし5月ごろには体制が整い、出荷も増えるものと

27年3月期の計画は。児嶋 増収増益を計画している。インドネシアおよび九州工場ともに稼働が安定して生産量が増加するほか、受注についても片面板は好調を維持しており、両面板の低調をカバーできる見通しだ。

インド新拠点の現状は。児嶋 出張所として現地での活動を開始する。インド市場では、片面板と両面板ともに家電向けなどの需要が伸びている。製造はベトナムとインドネシア工場が担うが、市場の拡大次第ではインドでの生産も検討する。ま

九州でアルミ基板の生産体制を整え、業績の改善に努めていく。現在の製品割合を教えてください。児嶋 片面板と両面板がそれぞれ約4割、実装と金属基板がそれぞれ約1割となっている。しかし、27年3月期以降は金属基板が増加する予定

だ。金属基板の売上高としては現在18億円まで拡大してきている。30年3月期には倍増させる計画だ。（聞き手・日下千穂記者

26年3月期の振り返りからお願います。児嶋 国内市場の回復や海外からの引き合い増加、アルミ基板における九州工場での生産立ち上

が、市況の変化や、BCPと脱中国の対応として進めていたインドネシアのライン入れ替えによる稼働の一時調整、日本でも九州工場でのアルミ基板の生産立ち上げが遅れたこともあり生産面で苦戦した。

実装事業はいかがでしょうか。児嶋 実装事業は好調で、全社の業績に貢献した。インフラ向け制御基板などの産業機器関連の

基板について、需要の増加に対応し、急遽ラインを立ち上げた。九州工場ではリジッド基板を生産しており、ラインの調整が難しく、また、生産プロセスにおける顧客の要望に沿った調整など立ち上げに苦戦した。しかし5月ごろには体制が整い、出荷も増えるものと

27年3月期の計画は。児嶋 増収増益を計画している。インドネシアおよび九州工場ともに稼働が安定して生産量が増加するほか、受注についても片面板は好調を維持しており、両面板の低調をカバーできる見通しだ。

インド新拠点の現状は。児嶋 出張所として現地での活動を開始する。インド市場では、片面板と両面板ともに家電向けなどの需要が伸びている。製造はベトナムとインドネシア工場が担うが、市場の拡大次第ではインドでの生産も検討する。ま

九州でアルミ基板の生産体制を整え、業績の改善に努めていく。現在の製品割合を教えてください。児嶋 片面板と両面板がそれぞれ約4割、実装と金属基板がそれぞれ約1割となっている。しかし、27年3月期以降は金属基板が増加する予定

だ。金属基板の売上高としては現在18億円まで拡大してきている。30年3月期には倍増させる計画だ。（聞き手・日下千穂記者